



超薄型、軽量の有機ELフィルムディスプレイ。右はメディアファッション展のワンシーン。背中に付けられたディスプレイが映像を映し出す



映像を表示する 21世紀の服



胸と袖にディスプレイが付いている。ネックレスに見えるのは実はヘッドホン。「使わない時でも美しく見えるデザイン」をテーマに服と同時に開発した

携帯電話の次は洋服で映像を見る時代の到来か。5月18日に東京・南青山で開催されたファッションショー「メディアファッション2001」において、パイオニアデザインは小型ディスプレイを組み込んだダウンコート、ダウンベストを発表した。袖、

胸、背中に付けられたディスプレイは、会社のロゴマークや動画を映し出した。

服に組み込まれたのは、パイオニアが開発し2000年9月に発表した有機ELフィルムディスプレイ。有機ELフィルムディスプレイはプラスチックフィルムを基板とした、厚さ約0.2ミリ、重量約1グラム(ICを含む)という超薄型、軽量のディスプレイ。従来のガラス製の基盤と異なり、割れにくく柔軟という特長がある。

今回発表した服は、パイオニアデザインの先行デザイン実験プロジェクトとして作られたものだ。「映像、音楽、情報サービスなど自分のお気に入りの環境を、いつでもどこでも得るためにはどうすればいいのか。その最もミニマムなスタイルが、服として身に付けるということだ」(原澤直希・パイオニアデザイン事業開発部マネージャー)。パイオニアデザインは、2003年の未来の服を想定して、ディスプレイやヘッドホンといったパイオニアならではの資源を取り入れた服を作ることになった。服のデザインを手掛けたのはcube-f代表のデザイナー、曾根美知江氏。曾根氏は情報機器と衣服を一体化させる「メディアファッション」の提唱者でもある。

ディスプレイ付きの服は、歩く広告塔、ブラウザーとしての役割など、幅広い活用法が考えられる。商品化の時期などは未定だが、ITとファッションの結び付きがどのような産業を生み出していくのかという点で大いに注目される。



マッサージいすは 中国メーカーとの労作



若い人や女性の購買者が増えているという家庭用マッサージいす。しかし、そのデザインは「重役いす」にとどまっているものが多い。このギャップを埋めるべく奮闘したのが、フリーのプロダクトデザイナーの酒井利彦氏。約1年前、それまでもデザインを提供していた中国の家電メーカーDAITO-OSIM社からマッサージいすの依頼を受けデザインを開始。デザインのやり取りはインターネットを通じて行い、試作品段階では本国の工場に4~5回出向いた。

らうことは多々あります。丈夫で大きいメカを作る傾向があり、エンジニアの考え方が日本や欧米と違う。家具として日本市場に受け入れられるレベルを心がけたのですが、現地の家具職人やエンジニアとは好みが変わり、勝手にデザインを変えられそうになるのを説得することは大変でした」と酒井氏は苦労を語る。いすに対する文化的背景が異なるのだろう。

出来上がったマッサージいすは、黒地のレザー張りにスチールの脚のすっきりしたデザインになった。もちろんマッサージ機能もきちんと収まっている。現在のところ中国と東南アジアの市場のみでの販売だが、日本での発売も検討している。

(渡部千春/フリーライター)



<http://www.sakaidesign.com/>

「機構部分をこちらの要請で変更しても